♪君たちがい～て、僕がいた♪

色んなＣＤから自分のお気に入りの曲を選択し編集・焼き付けして自分だけのＣＤを作る方法を、あるメル友の若者に教えられた。

昨日、半日かかりで作成した。１００枚を越えるＣＤから選曲・編集したが、ハタと気づくと舟木一夫の学園ものを数曲編入していた。

「自分の精神活動は高校時代そのままで、大人に成りきれない」と日頃呟き、卒業文集に「我が高校生活に、悔いないし！」と記した程で、丁度学園ものが流行った時でもあり、正に歌詞にある♪君たちがいて、僕がいた♪の高校生活だっただけに、学園もの数曲の選択も「さもあらん」とヘンに納得。

「真の友人２，３人と出会うことの出来た人生は、素晴らしい！」との言葉があるが、２，３人どころかたくさんの友人に出会えた高校時代は、やはり自分の原点のよう。

昨夜遅く、編集・作成したＣＤを聴きながら、高校時代の思い出に浸っているさなか、同級生の訃報のメール。

早速、同級のメル友数人にも連絡した。今朝のその返信の中に、「美人で頭のいい方だった」と同姓が認めるほどの方だった。

高校全校のマドンナ的な方だった。こうした方だけに、この厚かましい自分でさえ近寄りがたく、同じ教室で学んだが会話した記憶はないぐらい。卒後再会したことはないが、お顔、セイラー服姿は今も鮮明に思い出す。正に、「美人、薄命」か……。

訃報を知らせてくれたメル友は彼女の親しい友だけに、「急には、気持ちの整理ができません。」とあったが、さもあらんだろうなあ。「我々もこの歳、こうした訃報がこれから耳に入ることが多くなるのでしょうね。友がいなくなるのは、寂しいですね。」と、返信するのがやっと……。

高校時代に思いを馳ながらＣＤ編集・作成の日に、同級生の訃報を聞くとは……。

こんなに遠く、また長く故郷を離れていても、同級生の訃報を連絡してくれた友、「友達がいなくなるのは寂しいから、先に逝かないで！」と年に一度ひょこっと電話を寄こす友、毎月絵たよりをくれる友、等々、こうした同級生たちの存在は、今も♪君たちがいて、僕がいる♪という高校時代そのものか……。

急逝した同級生のご冥福を心からお祈りしたい。

（2005 年 7 月 18 日　記）